文法

修飾語のはたらき 1

修飾語のはたらきと使い方を理解する

月　日

名　前

●**修飾語とは**

次の文は、主語と述語だけでできています。

主語 ねこが、　述語 鳴きました。

□の言葉をつけ足すと、文がくわしく、分かりやすくなります。

どんな 小さな ねこが、　どのように ニャアと 鳴きました。

このように、文をくわしくする言葉を**修飾語**といいます。

修飾語には、「どんな」「どのように」「どのくらい」「いつ」「どこで（の・を・へ・に）」「だれに（の・を）」「何を（の・に）」などを表す言葉があります。

文の中の「何が(は)」「だれが(は)」に当たる言葉を**主語**、「どうした」「どんなだ」「なんだ」に当たる言葉を**述語**というよ！

1 次の文の中から、修飾語を一つずつ見つけて、線でかこみましょう。

① 赤い　花が、　さきました。

② すずめが、　パタパタと　はばたく。

③ 風船が、　空に　うかぶ。

④ わたしの　妹は、　三才です。

⑤ お母さんが、　手紙を　書く。

2 次の文に、修飾語をつけ足して、くわしくしましょう。

犬が、　ほえました。

6 問正解

学習プリント無料ダウンロード
ちびむすドリル
© ちびむすドリル